

おがわ

小川村ふるさと通信

No. 217
(2018年秋号)



秀麗、小川の里に紅葉とヤギさんスマイル

(写真 松本博充)

- 第1回おがわ健康・スポーツフェスティバル
- 小川に生きる
- 分館紹介 - 成就分館 -
- サークル紹介 - 編物教室 -
- ここに生まれた
- 若者が暮らす村
- 通学合宿



第1回 おがわ健康・ スポーツフェスティバルを終えて



第一回おがわ健康スポーツフェスティバルに参加された皆さん、いかがでしたか？楽しんでいただけたでしょうか。

このイベントは、子どもから大人まで障がいのあるなしに関わらず全ての幅広い年齢層の人々が「する・みる・支える」形で参加し、その参加者の健康意識や体力の向上を目指すとともに、村民の交流・連帯・地域づくりを促進することを目的としたものです。

平成19年には第53回を数えた村民運動会が行われ、翌年より内容もよりレクリエーション化しての村民ピックに変わり、そして今年は、自由参加型、体験型としてのイベントとしてみました。

フェスティバル当日は、天候にも恵まれ、また、各分



館の呼びかけなどにより、役員含め約300名ほどの参加者があり、初回としては予想以上の皆さまにお越しいただきました。中には、分館の事業として声をかけ合い参加いただいたところもありました。ありがとうございました。

今回参加できなかった皆さまには、来年は是非参加いただき、共に楽しいひと時を過ごしていただきたいと思えます。

小川スポーツクラブふれあいクラブのねらいは、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる「場」を地域



につくり、
定着さ
せるこ
とにあ
ります。
そして各
種プロ
グラ

ムや専門部の活動を通じて生涯ス
ポーツの創出に貢献することを目
指しています。「場」や「機会」が確保され、定期的な



実践が可能となり、さらに楽
しく充実したひと時を過ごす
仲間が得られる素晴らしいさは、
生涯にわたってスポーツを続
けるエネルギーにもなります。
さあ運動習慣をもちましょ
う。健康で生きがいのある毎
日を送る為にも、あなたの生
涯スポーツを見つけてください
い。



最後に私の提案ですが、分館活
動の中に本館や村で行う事業への
参加を入れていただき、最寄りの
地域住民に声をかけ、分館役員
の皆さまがいつしよに参加する形
を作れば、分館役員の皆さまの
準備や片づけの負担がなくなりま
すし、主催者側もPRがより浸透
し、参加者の増となり、お互いに
メリットが生じ、楽しいひと時を

過ごせる機会が増えるので
はないでしょうか。

これからもより多くの
人々がスポーツを楽しめる
環境を提供していきますの
で、ご参加ください。

第一回おがわ健康スポーツ
フェスティバル実行委員長・
健康運動指導士

宮下 登





伊藤 博文さん（馬曲）

農業青年

村長を引退して半年がたちました。在職中は村民の皆様が大変お世話になり改めて御礼申し上げます。振り返るとアツという間の8年間だったというのが実感です。家に引っ込んだでの生活は時間に余裕があると思っていました、今のところ忙しい日々です。引退してすぐに白内障の手術をし、6月は同級生と古希の旅行、7月から猛暑の中で農業を始めました。

農家の長男の私は、当然のように高校は中条高校農業課に進みました。ところが、卒業する昭和42年には、農業はすっかり衰退し工業化社会へと激変したのです。農業課の先生すら「西山の農業はもうダメ、進学しろ」という勧めで、以来40年も村を離れて人生を送ることとなったのです。

東京、大阪、岡山と県外に17年も



暮らし、長野市内での仕事を含めて3つの職業につきましたが、何処にいても、何をしても農業で苦労する親と故郷の風景を毎日思い浮かべていました。

それだけに、家において好きだけ農業に打ち込める今の気分は、高校卒業したての農業青年と言ったところです。

生まれ変わる集落

住まいのある馬曲集落は典型的な傾斜地農業地域でした。粘土質の地質と南向きの日あたりの良さから麦、大豆などがよくできることで知られました。しかし、子どもどころ40戸あった戸数は10戸に減り、高齢化で農地の荒廃も拡大しました。不在地主の農地を残っている人たちが共同で耕作する村の農業振興施策の集落営農を取り入れ、大豆栽培をされており、私も組合員として頑張っています。



す。

畑の傾斜をブルで押しして平らな畑にした結果は90アールもの平たん農地が誕生し「馬曲平野だね」と驚いた人もいました。

集落営農の作業には長野に家を建て就職し、定年退職で馬曲に通ってくる人も参加しています。また、村の空き家バンクを通じて住人となった人も加わっています。作業した人は時給千円をいただけます。

近未来のムラ

馬曲にもイターン世帯が2戸に増えて喜んでおります。北小川村と南小川村が合併した60年前には9,000人の過疎対策も効果がありませんでした。ところが、地方創生が始まってから、若者が人生観にめざめて地方に目を向けてくれるようになったのは画期的、歴史的な社会現象といえます。

地方に多くの人が移動したのは500年前の戦国時代以来のことだと思っています。武将たちは、侵略し



た地域を守るために家臣に命令して移住させ武士をやりながら農業もしたのです。戦いに巻き込まれて地方に逃げた人も沢山いたようで、幅広い知識を持った人たちが各地に分散したことで地方発展のエネルギーになったといわれています。

今の移住は、少子高齢化や大災害多発時代も移住促進の要因となっているようです。

私は20年先には村民の過半数をイターンの新村民が占めると予測しています。自分の身の周りを見れば、新村民の力に期待するしかないと考える人が多いのではないのでしょうか。

その頃は、村が持っている自然と資源の力をもっと活用したり食糧の自給を高めた農業の村になっている可能性があります。そんな新たなムラのために私達は今の村を精一杯守り発展させ、次に引き継ぎたいものです。村の暮らしに夢を描くイターンの人達は遠慮なく地域住人に考えを伝えてもらいたいと思います。

新旧住民のスクラムで進めばそれぞれが望む未来が開けるでしょう。

(松本館長)



分館紹介

成就分館

三十余年のあゆみ

分館長、主事会議に成就分館の主事として初めて出席をして・・・

他分館では年に二回程分館報の発行を行なっている？成就分館には分館報を発行する事業部門がない。これから分館報を発行するには、映像分館報にして60分のビデオテープに成就区民の二年間のくらし、事業、活動を一



本のビデオテープに収め、全戸配布をすれは後世に残っていくのではありません、分館に広報部を設け、当時の館長西条晴好先生に相談をして賛同をいただき、ご無理を言って本館にビデオ編集機を用意していただき、広報部の皆さんが真冬の寒い中、

本館にて毎晩6時間3週間かけて編集にご苦労していただき、出来たのが映像分館報「あゆみ」の始まりです。

早や三十年、今ではビデオ、テレビ全て想像を超え進化をしてDVDの時代になっています。

大変うれしい事に昨年広報部4人

の皆さんが大画面の4kテレビとデッキをセットで区へ寄贈してくれまして、年度末には成就公民館に区民が大勢集い、「あゆみ」「人間教育啓発DVD」の鑑賞会、及び懇親会が賑やかに催され、分館としても有難く利用させていただいておりますとともに、今年の「No.33あゆみ」



に期待しております。

分館の主な事業としては、毎年恒例の8月14日に成就

広場で行われる夏祭り盆踊りです、今年はSBCテレビから翌日午後6時15分から放送する二ユー・スワイド番組の撮影の依頼があり内容は小川村のお盆事業です。



水上枢様宅がモデル

でご先祖様を迎える準備から始まりおやき作り、御棚の飾りつけなどの様子を撮影し、盆踊りも映したいと言うことでした。午後6時には成就広場に祭りの準備が終わり、家で夕食中突然の大雨になりましたが、帰省客も含む成就の若人達約20人が駆け付け、成就公民館に場所を移し参加者約160名の人で賑やかに今年も盆踊りが出来撮影も終わりました。

少子高齢化が進む中、

成就伝統の絆が若人達に受け継がれている事をしみじみと実感させられた夏祭でした。



成就分館長
太田 順二さん

サークル紹介（参加してみました！）

手芸教室



今回は「手芸教室」を紹介したいと思います。皆さんは手芸というどんなイメージをお持ちなのでしょう。保育園や小学校に入る際に巾着袋を作ったり、パッチワーク、刺繍、手編みのマフラー・手袋だったりするのでしょか。

この手芸教室は、役場前に住んでいらした矢嶋さんがご自宅で矢嶋さんご自身が先生としてかぎ針・棒針編みを主に始まったそうです。十数年前からは公民館に場所を移し、中島さん、徳武さんを中心に月一回活動されているそうです。

お邪魔させていただいた日は3名の方が集まっています。ありがとうございました。

「もっと人がいる日に来てくれれば、作品もいろいろで良かったのにねえ。」

と、言ってくれましたが、今回の皆さんの製作途中の作品を見ただけでも私は満足でした。

編み物で使う糸はウールのイメージでしたが、綿で出来た編み物糸もあると知りました。一玉の色も単色ではなくグラデーションがついている物もあり、濃淡や色変をしたようになるそうです。実際その糸を使って編みかけの物を見せてもらいましたが、糸の細さ、模様やデザインの細かさに驚きました。編図も一見ではさすがにチンプンカンプンですが、編図を指さしながら「ここはこの編み方で、こう糸を拾って、編み目は…。」

と話すのを聞いてみると分かった気分になります。

前回からどこまで進んだか成果を見せたり、この先の編み方の確認をしながら皆さんいつの間にか手がスイスイ進んでいきます。こ





の日は襟の仕上げと、前・後身頃と袖の縫い合わせをさせていただきました。そして、女性はやはり手だけでなくおしゃべりにも花が咲き、私も楽しく聞かせていただきました。

『一つの作品を編み上げてから次に』ではなく、二・三枚同時進行をするそうです。一つだけやると飽きてきてしまうそうで、かぎ針で編んだり編棒で編んだり変化をつけているそうです。でも、気分がのると時間を忘れてしまうほど集中するそうです、

「あとこの一段を編んだら…。」
「この模様を終えたら…。」

となる半面、納得がいかないとためらいなく編んだ物をほどこいては編み直す、を繰り返すそうです。だからオンリーワンの素敵な作品ができるのでしょうね。

今回参加させていただいて、私が小学生の頃を思い出しました。母に毛糸をもらい編み方を教えてもらい

編んでいたことを…。

手芸教室の皆さんありがとうございました。いつか私も仲間に入れて下さい。皆さんもこれからの季節、編み物いかがですか？
(松本治代)



▲襟の仕上げ中

◀身頃と袖を縫い合わせ



◀きれいにできました



※次回は太鼓衆岳響さ
んです。

ご報告



伊藤さんご夫妻は、昨年の館報（213号）で二人の出会い、小川村での新しい生活などを紹介させていただきました。

今回は、ご夫妻にお子さんが生まれましたのでご紹介させていただきます。

二人は結婚した時点でいつか子どもができればいいなと思っていたようです。そう願っていた時、今年に入り



恵美里さんのお腹に新しい命が宿っていたことがわかりました。それ以来、毎日二人でおなかの子に話しかけるようにしていたそうです。

親になった今、思うこと

伊藤

聖寛

恵美里

さん（中町団地）

予定日は9月11日だったようですが、

予定日を過ぎてもお腹の中

が心地よかったようで、結

果10日過ぎでの帝王切開と

なり、赤ちゃんと出会えたのが9月21日でした。

生まれてきた子どもは出産間際の検診で大きさが3700gと言われていたようですが、実際は3186gの男の子だったようで、二人はもちろん先生達も約500gの誤差があったことにびっくりしていたようで



す（笑）

生まれてきた子どもを見た瞬間、生まれてきてくれてありがとうという気持ちで胸がいっぱいになったのとこのでした。ご主人の聖寛さんもその場に立ち会っており、とても感動したと話していました。

名前は、芯（こあ）ちゃん。名前に込めた思いは2つあり、「芯のある」子に育ってほしいとの思いから英語で芯という意味の（core：コア）、もう一つはハワイでカヌーやウクレレ工芸品の材料として高い人気を誇る樹木の（koa：コア）で、コアの樹のように、「人から愛されまた人の役に立てる子になってほしい」との両親の思いが込められた名前になっている
と話されて
いました。

親となつた恵美里さんは、芯ちゃんの顔



を見ながら
自分が親と

なった今、

自身の両親

に対して自

分をここま

で生み育て

ることがど

れだけ大変

で、心配事

など尽きな

かったであ

ろうかと思

うと、感謝しつくせない思いでいっぱいですと話して

ました。

今後は、二人が兄弟、姉妹のいる家庭で育ったこともあり、家族をもう少し増やしながら、皆で楽しくにぎやかに暮らしていくことが願いであるとのことでした。



（松澤）

7月31日 『夏の公民館 図書まつり』



7月31日に小学生対象のイベント「夏の公民館 図書まつり」が大勢の方に申し込んでいただき、定員数を超えての開催となりました。

夏休みの宿題・読書・アニメ映画の鑑賞をしました。みんなが楽しみにしていたハーバリウム作りでは男の子は大胆に女の子は細かい所まで丁寧に一人一人の個性が表れる素敵な作品に仕上がりました。

お昼には流しうどんを頂き、みんなで食べるうどんは、とても美味しかったです。



冬のおはなし会&クリスマスパーティー

予告

昨年、大好評だった冬のおはなし会&クリスマスパーティーを今年も開催します。

1年の中でいちばんワクワクする12月。1年を振り返りながらみんなと楽しく過ごしませんか？

今年も???をデコレーションして美味しくいただきますよ。

詳しくは後日、発行するチラシ・ポスターをご覧ください。

お申込みは先着順です。お早めに!!



▲昨年のイベントの様子

♥ 図書委員より『ぶっくるたんぽぽ』のご案内 ♥

小川村公民館1階にある図書室「ぶっくるたんぽぽ」は、約2万1千冊の一般書や児童書を始めた様々なジャンルの本をそろえています。また、子どもの読書普及を図るため、私たちTガールズ（図書委員）による読み聞かせイベントを、図書室において年数回開催しています。

こじんまりとした図書室ですが、毎月の新書や図書イベントを楽しみに待ってくださる方のためにも全力でがんばりたいです！

ちなみに平成29年度は、延べ1,679人の利用があり、4,615冊の本を読破いただきました。

小さくても居心地のいい「ぶっくるたんぽぽ」。多くの方のご来室をお待ちしております。

《データ》

☆利用できる時間：9時～17時

☆休室日：月曜日

（月曜日が祝日・振替の場合はその翌日）

☆本の貸し出し：1回5冊 2週間

☆本のリクエスト：受け付けます！

※詳細お問い合わせは、☎ 269-2077 公民館事務局まで



ブックスタート ～生後6ヶ月の赤ちゃんへ本のプレゼント～

『子どもに読んで聞かせたい本は？』

平成29年11月から

平成30年2月生まれの赤ちゃん

「おきなかなが」
A・トルストーリー



ミシエルス
ジャンヌちゃん

「くじらぐらりのシリウス」
なががわりえいこ



茶橋
いづき
輝くん

「いなかのなごほい」
松合みず希



林
かえ
風衣ちゃん

「たへものたび」
かこさとし



三水
しほ
志歩ちゃん

若者が暮らす村



人口が減少する中で、若者の田舎の暮らしに対する関心は高まっているように感じます。心の癒しを求めて。この小さな村だからできることを探して。関心の矛先は様々

ですが、「田舎は何もない」という偏った考え方も古いです。何もないところから新しいものを作り出す。それが新鮮で面白く、限りない興味を引き出しているのではないのでしょうか。

今回は、鳥取から移住し、若手地域おこし協力隊として活躍する大西未沙子さん（写真右）と竹内愛実さん（写真左）に、移住のきっかけや協力隊としての活動についてお話を聞きました。

現在23歳、幼なじみだという二人は、今年の4月に

小川村へ移住してきました。きっかけは、去年の春に東京で行われた移住相談会。当時二人は別々の美術系大学に通っていましたが、就活の相談など連絡を取り合う中で、将来思い描く理想の生活が似ていたことをきっかけに、共に仕事を探し始めたそうです。

理想の生活―それは、日本昔話に出てくる風景のよいうな、畑があり、自然あふれる生活でした。「本当にやりたいことは何か？」を考えるうちに、食べ物や道具など、身の回りのものを自分で作る暮らしがしたいということに気が付いたそうです。そんな中、地域おこし協力隊の活動を知り、縁あって小川村を含む県内三ヶ所を回ることに。慣れない土地に足を踏み入れ、色々な人と出会い話を聞く中で、協力隊という仕事に魅力を感じ、最終的には小川村が一番理想に近かったことが移住の決め手となったそうです。

協力隊になってからは、3年間という限られた時間の中で、自分たちの生業探しをしながら、日々模索しています。移住体験宿泊施設のチラシ作りや、8月に大洞高原で行われたサマーフェスティバルの横断幕



制作、村民の方から依頼を受けた名刺作りなど、美術に長けた彼女たちの能力を生かす仕事も任されているようです。また、小さな美術工房をつくる〴〵という目標を持って協力隊となった二人は、コケや竹、つるなど、小川村にあるあまり

目を向けられていないものを何か活用できないかと考えながら活動しています。

その中で、「森の中に小さな生き物が住んでいたら…」という想像から、「コムラビト」というキャラクターが生まれました。「コムラビト」とは私たちの生活を真似て暮らす小さな生き物です。今はキャラクターの制作と、小川村を舞台にした写真撮影を行っており、「コムラビト」の世界を体験してもらえるようなイベントも企画中だそうですね。

「いつかはもう少し奥に住んで、



自給自足の生活を送りたい」と話す大西さんと竹内さん。今回お二人と初めて深くお話をして、出会った頃の大人しいイメージとは真逆の行動力に驚きました。自分の理想を理想で終わらせず突き進む探究心は、同世代としてとても誇れる部分です。協力隊という立場ではなく、一村民として彼女たちを応援していきたいですし、若い人が暮らしやすい村づくりをしていくことが重要であると感じました。

大西さん「今は私にできること、やりたいことを試行錯誤しています。自分がわくわくすることが結果的に何かのきっかけ、誰かの幸せに繋がれば嬉しいです。村のあちこちにいると思うので、やさしい目

で見守ってください。」竹内さん「村に来てから、優しく受け入れてくださる方ばかりで、とても感謝しています。私たちが見つけた「楽しい！」を、皆さんにも楽しんでもらえたらいいなと思います。これからも暖かく見守ってくださいると嬉しいです。」今後のお二人の活躍に期待しましょう！

(笠井)





9月の24日～25日にかけて公民館で第二回目となる『通学合宿』が行われました。参加したのは1年生から6年生までの22人。一日目の開会式から緊張した様子はなく、これから始まる通学合宿を楽しみにしている様子です。

まずは班ごとに会議で決めた献立に基づきマルエ商店でお買い物です。カレー・シチュー・ハンバーグなど班によって作るメニューは様々で、買ひ物係になった子が皆に指示を出しながら商品を選んでいました。買い物を終え、公民館に帰る際には手分けして商品の詰まった買い物袋を運びました。

さあ、いよいよ夕食作りです。包丁の扱いなど、見ていてハラハラしてしまうような場面もありましたが、皆で助け合いながら料理を行い、夕飯を完成させました。みんなで食べる食事はとても盛り上がり、どの班もおいしく作れた夕飯をおなか一杯食べることがで



きました。

その後、皆で小川荘のお風呂に行き、映画鑑賞を行い、9時に就寝となりました。

翌朝は朝の5時半に起床です。眠たい目をこすりながら朝食の準備をし、ご飯を食べ終えたら班ごとに小学校へ登校していきました。

一日の授業を終え、公民館に帰ってくるとその日出された宿題を皆でやり、終わつた子たちから元気に遊んでいました。最後の終わりの会では、各班の班長が通学合宿の感想発表を行いました。この二日間で楽しかったこと、大変だったこと、色々なことがあつたようです。

子ども達が自分自身の力でやりとげた「通学合宿」。ここでの経験が日々の生活で活かされることを期待しています。(中村)

